

日本学術会議

健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会（第24期・第7回）議事録

1. 日 時 令和2年9月24日（木）16:00-18:00
2. 場 所 ビデオ会議（Zoom）
3. 出席者：田原、川上、來田、宮地、井谷、荻田、小熊、神崎、佐々木、定本、寒川、田畑、永富、三輪（敬称略）
欠席者：越智、福林（敬称略）

4. 議 事

冒頭、來田幹事より、2020 横浜スポーツ学術会議が無事に開催できた旨報告され、関係者への謝意が伝えられた。

1) 前回の議事録の確認

議事録案に関し確認され、了承された。

2) 提言について

- ほぼ全ての原稿が提出され、現在編集中である。
- 提出済みの原稿は、編集チームからのコメントに基づき複数回修正した。
- 9月30日までに一旦まとめる。
- 第25期で審査を受けて表出して頂くよう申し送る。

3) 第25期への申し送り事項について

- 3つのワーキンググループの活動内容は別添資料（第24期 健康・スポーツ科学分科会における活動・議論の概要）に取りまとめ、内容を申し送る。特に、ターミノロジーの問題は、第24期以前から検討が継続されていることについても申し送る。
- 執筆途中の提言の取りまとめを検討して頂くよう申し送る。
- 近年の社会情勢の変化に伴うスポーツ・身体活動に対する国民意識の変化に対応して、スポーツ庁や厚労省に限らず、提言先を検討すべきである。
- 健康・スポーツ科学を学んだ若者が活躍できる場を学術の力で創出することを目指してほしい。
- コロナ禍でのスポーツのあり方に対し、発信すべきである。
- 保健体育教育の充実に一層貢献すべきである。
- スポーツやその指導を通して傷害や障害を負うことが無いよう学術が貢献すべきである。
- スポーツと親和性の高い栄養などの分野と積極的に連携すべきである。
- E-sports、身体に負担をかけないリハビリなど、従来のスポーツ・スポーツ科学の概念から逸脱しつつある事象への対応が必要である。

4) その他

- ・2020年5月以降、オンラインで開催された日本学術会議の学術フォーラム・公開シンポジウムの動画を、授業などの教育目的に限り、利用できる方向で調整が進んでいる。ただし、現状では教育用著作物ネット配信円滑化制度において著作物の教育目的利用が無料でできる2020年度のみ適用となる。

以上